

農業技術普及を支えるキャパシティ・ビルディング

SAA NEWSLETTER - November 2022

1. 理事長メッセージ

SAA の能力開発プログラム（旧笹川アフリカ農業普及教育基金（SAFE））は、アフリカ 11 カ国、31 の大学や農業学校と連携し、現場の農業普及員の学びを支援しています。同プログラムは、現場のニーズに基づくカリキュラム開発を行い、農村地域の変わりゆく多様なニーズに対応するために必要なスキルを普及員が身に付けることを目的としています。学生（普及



員）は、技術や知識をさまざまな参加型のプログラムを通して学びます。例えば、「事業改善プロジェクト（SEP）」と呼ばれる実践的な課題解決プロジェクトでは、学生が農村コミュニティの抱える課題を特定・解決することを目的としています。学生は担当教官と SAA の技術スタッフの監督の下、農村の課題解決に取り組みます。これまでに、合計 6,800 人以上の学生が能力開発プログラムを卒業しています。

一方、SAFE プログラムが開始された 30 年前と比較すると、世界及びアフリカの農村を取り巻く環境は大きく変化しています。気候変動、土壌劣化、COVID-19 の流行、燃料や肥料の価格上昇など、農村コミュニティに大きな影響を与える世界的な課題が増加しています。一方、ポジティブな側面として、より多くの農家や農業関係者がいまや ICT を効果的に活用し、農業普及においても、公的サービス一辺倒ではなくさまざまなアクターがその役割を担っています。こうした変化は、アフリカの農業普及システムが、より多様でダイナミックなものになったことを意味しています

SAA の能力開発プログラムにおいても、より包括的にニーズに対応すべく、現在は次の 2 つの柱で構成されています。1) 現職普及員を対象とした大学や農業大学との連携による長期研修、2) 普及員や若者、その他の農業バリューチェーンに関わるステークホルダーを対象とした SAA の戦略の柱（環境再生型農業・栄養に配慮した農業・市場志向農業）に沿った特定のテーマや課題に関する短期研修です。さらに、様々なワークショップやセミナーといった形で、現場のニーズに応じた技術支援も行っています。

私たちは、大学や農業学校との長期的な協力関係こそが SAA の財産であると信じ、これからもパートナーと農家とともに歩んでいきます。

北中真人

理事長 北中 真人

2. PROGRAMS AND ACTIVITIES

【エチオピア】大学による能力開発プログラムのモニタリングを実施



2022 年 6 月 12～16 日、SAA エチオピア事務所は、Jigjiga 大学の能力開発プログラムの進捗確認のため現地を訪れ、モニタリングを実施しました。同モニタリングにおいて、SAA は、当財団の助成で設立した苗床施設が目的通り機能しており、既に学生が苗木生産などの実習に参加していることを確認しました。同施設では、ニーム、ピンクペッパー、ギンネム、カエンボク、オレンジ、マンゴー、アボカド、レモン、パパイヤ、グアバなど、様々な苗木約 8 万本が植え付けられています。また、6 万本以上の苗木を地域の農家に配布し、エチオピア政府が主導する「緑の遺産」プログラムに貢献、気候変動の緩和に寄与しています。

【エチオピア】大学講師に現場レベルのイノベーションを紹介



2022 年 5 月 19 日、SAA エチオピア事務所は、Bahir Dar 大学で講師向けの経験共有ワークショップを開催し、9 大学から 25 人の講師（女性 6 人）が出席しました。同ワークショップの目的は、SAA が現場レベルで普及する改良農法やイノベーションを共有し、講師たちが学生に事例（成功例）として伝えることです。SAA エチオピア事務所の技術コーディネーターは、環境再生型農業、栄養に配慮した農業、市場志向型農業の概念と実施方法、および事業改善プロジェクト（SEP）における現場レベルでの事例を交えて講義しました。活発な意見交換を通じ、同ワークショップが、教育の現場におけるフィールドの活動に対する理解を深めるものであることが確認されました。

【マリ】課題解決型の実践研究で学生を支援



事業改善プロジェクト（SEP）は、SAA が提携する大学や農業学校のカリキュラムにおいて重要な柱です。SEP を通じ、学生（普及員）は、農村コミュニティが直面する課題を解決するための実践研究に取り組みます。2022 年、SAA マリ事務所は、Samanko、M'pessoba、Same の 3 大学と農村技術研究所（IPR/IFRA）の学生計 16 人（女性 8 人）に対し SEP の実施支援を行いました。学生は、学業成績や提案書の内容、研究テーマと SAA の活動との関連性等により選考されました。今回選ばれた研究テーマは、トウモロコシ、ソルガム、ミレット、ゴマの耐乾性品種に対する改良技術の有効性、有機肥料の利用、生産者グループ組織の支援、女性のための収入創出活動（農産物加工、小規模養鶏、小型反芻動物の飼育など）、土壌保全や森林再生などです。

【ウガンダ】学生にインターンシップの機会を提供



SAA は、長年にわたり、何百人もの学生にインターンシップの機会を提供してきました。2022 年、SAA ウガンダ事務所は、マケレレ大学とブシテマ大学で農業普及、アグリビジネス、土壌学など、農業関連分野を学ぶ 22 名のインターン生の受け入れを行いました。学生は、SAA が活動する地域に配属され、SAA スタッフや現場普及員の指導を受けます。マケレレ大学の学生のインターンシップ・プログラムは、2つのフェーズで構成されており、フェーズ1では、農村コミュニティに入り、農村が直面している課題の評価を行います。フェーズ2では、農村の優先課題に対する実践的な解決策を導きます。

【タンザニア】SAA の環境再生型農業（RA）戦略と活動を教員に共有



2022 年 7 月 14 日、SAA はタンザニアのソコイネ農業大学（SUA）で教員育成のための研修指導者養成研修（TOT: Training for Trainers）を実施し、SAA の戦略の柱である環境再生型農業（RA）、栄養に配慮した農業（NSA）、市場志向型農業（MOA）をテーマに講義を行いました。同研修は、合計 20 名の（女性 5 名）教員を対象に、SAA の戦略や活動分野に対する理解を深めてもらうとともに、同大学で実施する事業改善プロジェクト（SEP）において、RA、NSA、MOA の知識・技術を効果的に組み込むことを目的としています。同研修を受けた教員は、学生である中堅普及員を対象とした研修プログラムに、RA、NSA、MOA の手法を積極的に組み込むことに意欲を示しました。

【エチオピア】講師を対象としたe-ラーニング・マネジメント研修を実施



2022年6月23日～24日、エチオピアのアディスアベバで、e-ラーニングの運用に関する研修指導者養成研修（TOT: Training for Trainers）を実施しました。8大学から23名の教員（女性4名）が参加し、普及員の能力開発プログラムにe-ラーニングを活用する意欲を示しました。同研修では、ユーザーアカウントの管理、e-ラーニング・プラットフォームへのコンテンツのアップロード、AV機器を用いた授業の準備、写真やビデオ撮影の技術など、さまざまなトピックが取り上げられました。

同研修を通して、参加者はビデオなどの動画ファイルを作成し、e-ラーニング・プラットフォームにアップロードするスキルを身に着けました。e-ラーニング・プラットフォームの基本的な運用方法を習得した参加者は、各大学で他の教員に今回得た技術をシェアすることを約束しました。現在、Jigjiga大学ではe-ラーニング・プラットフォームを導入し、正式な運用開始に向け準備をしています。

3. 現地からの声

【エチオピア】SAFE 卒業生、事業改善プロジェクト（SEP）を養蜂事業へ発展



ウブシェット・アドゥグナさんは、エチオピア農業省の普及員として8年間勤務した後、1998年にハラマヤ大学（当時アレマヤ大学）のSAFEプログラムに参加、事業改善プロジェクト（SEP）として養蜂を選択しました。そしてSAFEプログラムを卒業した後、2003年にエチオピア南部のボンガ地区で、50haの土地に50個の巣箱を準備し、養蜂事業をスタートしました。3年後、蜂蜜と蜜蝋の加工会社 Apinec-Agro Industry PLC を設立。食品の安全性と衛生に関する国際的要件、食品安全マネジメントシステムの認証を取得しました。同社は、14のグループからなる2000人の有機蜂蜜生産者（女性950人）とネットワークを形成し、これまでに400トンの蜂蜜、20トンの蜜蝋をノルウェー、オランダ、日本、米国に輸出しています。

アドゥグナさんはまた、農家、協力団体、若者、専門家などに、製品開発、養蜂と加工、女王蜂の飼育と繁殖、巣箱の製造に関するトレーニングを行う会社 Apinec-Apiculture TVET College を設立しました。現在では、200人以上の女性養蜂家が、地元で手に入る材料で手頃な価格の巣箱を製造・販売しています。現在、28人の正社員を雇用し事業を拡大しているアドゥグナさんですが、成功要

因の一つとして、SAFE の能力開発プログラムに「参加したことを挙げています。今後、さらに 300 トンの蜂蜜を採取し、130 万枚の養蜂用飼育シートを生産し、国内外市場の需要に応える計画です。

【マリ】若者のロールモデルとなる起農家ディアロさんのストーリー



マリのカティンブグにある農村技術研究所・応用研究（IPR/IFRA）で農業経済学の学士号を取得したチェック・ジブリル・ディアロさんは、カイエス地方サメ村にある家族の土地を利用して農業で起業することを決意しました。そして 2022 年 3 月、SAA がサメ農業大学およびカイエス地方農業局と共同で実施した、ビジネスプラン策

定、ポストハーベスト管理に関する研修を受講し、研修で得た知識を活かしキュウリ・オクラ・レタス・ナス・コショウなどの栽培を始めました。そして熱心的な取り組みが評価され、ディアロさんは地域のモデル農家に選ばれ、灌漑用のモーターポンプなどの農機具の供与を受けました。今では四半期に約 30 万フラン（517 米ドル）の利益を得る他、地域の雇用創出にも一躍買っています。

【ナイジェリア】優良種子生産事業で成功を収めたサディークさんのストーリー



ヌフ・サディークさんは、2005年に Ahmadu Bello 大学の SAFE プログラムに参加し、事業改善プロジェクト（SEP）のテーマとして、優良種子の生産技術を選びました。同プロジェクトで得た起業家精神のもと、彼は種子会社を設立し、国家種子委員会の認定を受け、食糧農業機関（FAO）、国際農業開発基金（IFAD）、カドナ、ザムファラ、アダマワ、ケビの各州政府に、高品質の種子を提供するようになりました。同社は、40人以上の従業員を抱え、3年間で2万トン以上の種子を配布、年間平均約3万米ドルの収益を上げています。さまざまな原種・認定種子生産のトレーニングを受けた200人以上の契約農家とネットワークを形成し活動しています。また、2018年より、SAAと協力し、事業改善プロジェクト（SEP）の普及員や大学生を対象に、民間の農業普及サービスに関する指導を行っています。

【ウガンダ】農業をビジネスに。ウガンダの SAFE 卒業生が語るサクセス・ストーリー



SAFE 修了生のビッキー・ニヤカトゥーラ・バゲンダさんは、**2002** 年にウガンダのマケレレ大学で農業普及の学士号を取得した後、ムコノ県の自治体に勤務していました。数年後、ビジネスとして農業に取り組むことを決意し、地域の研修センターとしてモデル農場を立ち上げました。現在、同農場では、スイートペッパーを栽培する**3**つの温室、ティラピアやナマズを育てる**5**つの養魚池、**563**羽の地鶏、**117**羽のウサギを飼育する半放牧養鶏事業、トマト・キャベツ・パセリ・

ケール・ほうれん草・アマランスなどの野菜、ペパーミント・ステビア・バジルなどの香辛料生産の**6**事業に取り組んでいます。バゲンダさんは、「自分では作りきれないほどの需要がある」と言います。

さらに、バゲンダさんは、中学校や大学の学生、若者の農家グループ、地元の農家を対象に、**1**日**5**米ドル（**2**時間）で指導を行っています。この**2**年間で、地区内の中学生**50**人、ルウェロ地区の青年農家グループ、教会の農家**32**人を受け入れました（**2**日間のコースで一人**8**米ドル）。さらに、インターンシップに参加する大学生の受け入れと指導も行っています。

4. EVENTS

日本財団 笹川陽平会長、SAA エチオピア事務所の活動を視察



2022年8月30日～31日、日本財団の笹川陽平会長が、SAAのルース・オニアンゴ会長、北中真人理事長とともに、エチオピアのアンガチャ地区、ネゲレ・アルシ地区の活動現場を視察しました。エチオピア農業省、SAAの現地事務所、戦略パートナーシップ・オフィスから、経営陣やスタッフが同行し、研修センターや農家の畑における環境再生型農業のデモンストレーションサイト、コミュニティによる種子生産現場、日本の外務省によるNGO連携無償資金協力事業PREMAPの活動であるe-kakashiパイロット・プロジェクト、製粉施設、パーマガーデン、農業用機械、密閉式倉庫、農業資材販売店などの現場を視察しました。笹川会長は、改良技術の導入が進んでいるのは、農家がSAAを信頼し、自ら変革に取り組んだ結果であると述べ、エチオピアをはじめアフリカ全域でSAAの活動を拡大する必要性を強調するとともに、継続してSAAの活動を支援する決意を表明されました。

【ナイジェリア】SAA ナイジェリア事務所、「全国農業普及マニュアル」の改訂に貢献



2022年6月、SAA ナイジェリア事務所長と能力開発プログラム・コーディネーターは、ナイジェリアの農業普及員向け「全国農業普及マニュアル」の改訂会議に参加しました。改訂版のマニュアルには、SAAの農業普及アプローチが盛り込まれました。この会議は、連邦農業農村開発省（FMARD）が主催し、USAID Feed the Future Nigeria's Agricultural Extension and Advisory Services Activityの支援を受けて行われました。

【ウガンダ】若手農家を対象としたアグリプレナリーシップ研修を実施



2022年8月、SAAは、コレとムベンデ地域の36人の若者（女性9人）を対象に、アグリプレナリーシップに関する研修を実施しました。参加者は、キャパシティ・ギャップ・アセスメントの評価に基づき選考されました。同研修は、起業して間もない若者やこれから起業を考えている若者を対象に、持続可能で競争力のあるビジネスを実現するために必要なビジネススキルを習得し、必要な情報やサービスを活用できるようになることを目的としています。具体的には、事業計画の分析・策定方法、マーケティング（交渉などのコミュニケーションを含む）、財務計画などに重点を置いています。研修のまとめとして、ビジネスコンテストが開催され、参加者は自身のビジネスアイデアを発表しました。発表した参加者から最終的に4人が選ばれ、それぞれ100万シリング（USD267）相当の創業資金を受け取りました。

Fin.